

令和7年度 環境省請負事業
「地域循環共生圏創造事業費
(地域循環共生圏に係る戦略的広報業務)」
今年度の事業内容について



令和8年2月18日

今年度事業について

潜在層の巻き込みと有機的なつながりを実現することを目的に、今年度は①広報戦略の検討(本WG)、
②広報実施を実施

本事業の目的

- ✓ 全国で地域循環共生圏を広げていくためには、**様々な主体と連携**して更に「自立した地域」を増やし、**地域同士の有機的なネットワークを形成**していく必要がある。
- ✓ 潜在的に地域循環共生圏の概念に共感し、地域づくりの担い手となり得る者に対して、**事例を含め効果的に情報を提供(=広報実施)**し取組を後押しし、「自立的な地域」づくりに取り組む**主体同士の有機的なつながりを促進(=広報戦略の検討)**することを目的とする。

事業の内容

情報収集	広報戦略検討	広報実施
広報ターゲットのニーズ調査・分析 <ul style="list-style-type: none">ターゲットとなる自治体や民間団体へのニーズ調査・分析を実施	GEOCとの連携 <ul style="list-style-type: none">ターゲットとなる自治体や民間団体へのニーズ調査・分析を実施 ワーキンググループの運営 <ul style="list-style-type: none">広報戦略及び広報施策を討議するWGの運営	フォーラムの企画・実施 <ul style="list-style-type: none">事例の発信や新たに取り組む地域や団体の創出を目的としたフォーラムを実施 ウェブサイトの改修・運用 <ul style="list-style-type: none">広報戦略に合わせて、地域循環共生圏ウェブサイトの改修・補修を実施 オンラインセミナーの実施(※ERCA事業) <ul style="list-style-type: none">上記イベント開催後に、自治体や民間団体等を対象とした講演・研修を実施

広報戦略WGについて

地域循環共生圏の潜在層(非関与層)の巻き込みと関与層に向けた有機的なつながりを実現するための施策の在り方について議論し、本年度の広報実施(フォーラム、セミナー、ウェブサイト)に反映

広報戦略WG 委員一覧

江口 健介
一般社団法人環境パートナーシップ会議

小林 味愛
株式会社陽と人 代表取締役

野崎 伸一
厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課長／(一社)エコシステム社会機構 事務局長

深尾 昌峰
龍谷大学 副学長／政策学部 教授

谷中 修吾
BBT大学大学院 経営学研究科 MBA 教授／BBT大学 経営学部 教授

開催実績(予定含む)

第1回 令和7年6月26日(木)
第2回 令和7年8月22日(金)
第3回 令和8年2月20日(金)

WGでの主な意見

広報戦略全体	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 単年度で取り組む役割と長期的な役割を分けて検討することが重要。(江口委員) ✓ 誰がターゲットなのかを明確にするべき。(谷中委員) ✓ 地域循環共生圏への関与も立ち位置によって関わり方は異なるため、幹事、プレイヤー、サポーターなど、ターゲットを明確にするべき。(谷中委員) 						
非関与層への施策	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="807 596 1000 711"> 興味付け </td> <td data-bbox="1000 596 1908 711"> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「どう地域のためになるか」の言い換えが必要。(江口委員)★ ✓ 関心のない人に「地域循環共生圏」と投げかけても入っていかない。(野崎委員)★ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="807 711 1000 953"> 意識変容・行動変容の創出 </td> <td data-bbox="1000 711 1908 953"> <ul style="list-style-type: none"> ✓ すでに地域づくりに関与している人たちが「共生圏」という概念を取り入れることでヒントを得られる、仲間を得られる、突破口につながる事が大事。(江口委員)★ ✓ 環境と福祉を同じ「暮らしの問題」として捉えていくための機会が徐々に広がっている。統合的な暮らしの問題と捉え、どう越境していくのか、どう地域の資源を使い倒して行くのかという議論にしていくことが大事。(深尾委員)★ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="807 953 1000 1175"> 発信方法 </td> <td data-bbox="1000 953 1908 1175"> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「可処分時間」は有限であり、既存のネットワーキングの場や研修の機会に地域循環共生圏の考え方を入れ込むことが重要。(小林委員) ✓ 国から情報を展開することで、結果的にむしろ無関心になる人も多い。「この人が言うんだったら参加してみよう」と思えるようなライトパーソンに適切に情報共有が行われ、その情報が地域に伝わると関心を持つ人は多い。(小林委員) </td> </tr> </table>	興味付け	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「どう地域のためになるか」の言い換えが必要。(江口委員)★ ✓ 関心のない人に「地域循環共生圏」と投げかけても入っていかない。(野崎委員)★ 	意識変容・行動変容の創出	<ul style="list-style-type: none"> ✓ すでに地域づくりに関与している人たちが「共生圏」という概念を取り入れることでヒントを得られる、仲間を得られる、突破口につながる事が大事。(江口委員)★ ✓ 環境と福祉を同じ「暮らしの問題」として捉えていくための機会が徐々に広がっている。統合的な暮らしの問題と捉え、どう越境していくのか、どう地域の資源を使い倒して行くのかという議論にしていくことが大事。(深尾委員)★ 	発信方法	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「可処分時間」は有限であり、既存のネットワーキングの場や研修の機会に地域循環共生圏の考え方を入れ込むことが重要。(小林委員) ✓ 国から情報を展開することで、結果的にむしろ無関心になる人も多い。「この人が言うんだったら参加してみよう」と思えるようなライトパーソンに適切に情報共有が行われ、その情報が地域に伝わると関心を持つ人は多い。(小林委員)
興味付け	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「どう地域のためになるか」の言い換えが必要。(江口委員)★ ✓ 関心のない人に「地域循環共生圏」と投げかけても入っていかない。(野崎委員)★ 						
意識変容・行動変容の創出	<ul style="list-style-type: none"> ✓ すでに地域づくりに関与している人たちが「共生圏」という概念を取り入れることでヒントを得られる、仲間を得られる、突破口につながる事が大事。(江口委員)★ ✓ 環境と福祉を同じ「暮らしの問題」として捉えていくための機会が徐々に広がっている。統合的な暮らしの問題と捉え、どう越境していくのか、どう地域の資源を使い倒して行くのかという議論にしていくことが大事。(深尾委員)★ 						
発信方法	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「可処分時間」は有限であり、既存のネットワーキングの場や研修の機会に地域循環共生圏の考え方を入れ込むことが重要。(小林委員) ✓ 国から情報を展開することで、結果的にむしろ無関心になる人も多い。「この人が言うんだったら参加してみよう」と思えるようなライトパーソンに適切に情報共有が行われ、その情報が地域に伝わると関心を持つ人は多い。(小林委員) 						
関与層への施策	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 色々ある他領域のPF全てと組むことを考えるのではなく、連携先を見越して組んでいくことが重要。(野崎委員) 						

★:本年度の広報実施(フォーラム、セミナー、ウェブサイト)に反映

広報実施①地域循環共生圏フォーラム2025 :実施概要

フォーラム初の都内対面開催にて実施、企業担当者を中心に対面・オンライン810名が参加

フォーラムの目的

潜在層への意識形成

特に企業、金融機関を対象に、ビジネスチャンスの広がりの可能性の示唆と、自社での展開の検討・地域循環共生圏に関する情報収集等(メルマガ登録・セミナー参加登録)への行動の促進を目指す。

地域循環共生圏の思想と実践の提示

地域で活動を行う団体や企業、金融機関に対して、地域循環共生圏に取り組むことが、事業の持続可能性や地域全体の持続可能性を高め、産業創出、関係人口創出につながることを示す。

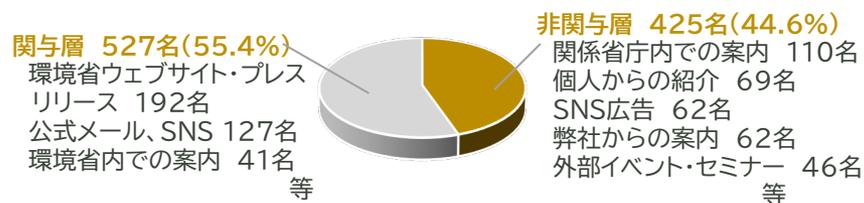
- ◆開催日時:令和7年11月18日(火) 13:00~17:05
- ◆開催場所:イイノホール&カンファレンスセンター
- ◆開催方法:対面・オンライン
- ◆参加人数など
 - 申込総数:**1,085名**(会場:388名 オンライン:697名)
 - 当日参加者数:**810名**(会場:305名 オンライン:505名)
 - 懇親会参加者数:**75名**(企業46名、行政13名、地域団体13名、大学等3名)

- ◆その他
実施内容はnoteでの記事化とアーカイブ発信を実施

会場参加者内訳(305名)



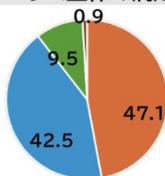
流入経路内訳(952名)



広報実施①地域循環共生圏フォーラム2025 :アンケート結果

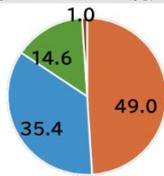
フォーラム全体の満足度は高く、また、目的としたターゲットに対して地域循環共生圏への共感や意識変容を促すことができた

<フォーラム全体の満足度>



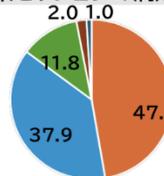
■とても満足
■やや満足
■どちらともいえない
■やや不満
■不満

<省庁セッションの満足度>



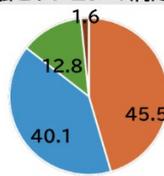
■とても満足
■やや満足
■どちらともいえない
■やや不満
■不満

<企業セッションの満足度>



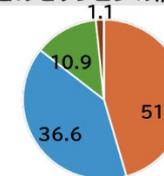
■とても満足
■やや満足
■どちらともいえない
■やや不満
■不満

<金融セッションの満足度>



■とても満足
■やや満足
■どちらともいえない
■やや不満
■不満

<まとめセッションの満足度>



■とても満足
■やや満足
■どちらともいえない
■やや不満
■不満

アンケート結果(今後どのように関わりたいか)

※複数回答	自ら取り組みたい	実践者と連携したい	セミナーに参加したい	情報収集したい	特になし
大企業 (55)	23 (41.8%)	21 (38.2%)	21 (38.2%)	34 (61.8%)	2 (3.6%)
地域企業 (48)	21 (43.8%)	15 (31.6%)	24 (50.0%)	30 (62.5%)	0 (0.0%)
大手金融/VC(4)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)
地域金融 (5)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)	0 (0.0%)

大企業

大手金融

地域企業

設計

定性コメント

- ・初めての参加であったが考え方には賛同できる部分が多く、一企業としてどのように関与できるか考えていきたい。
- ・社会貢献として関わる事業は持続しないが、事業活動として関わる事業は持続するという視点は共感した。

- ・大手金融機関が地銀と連携して地域を盛り上げていく形が非常に合理的であると感じた。最後のネイチャープレナーの活動についても、新しい視点であると感じた。

- ・ローカルSDGs事業を生み出す仕組みに、金融機関は不可欠であり、地域の金融機関と地元・住民とがどうお互いに地域の未来に向き合うか、一緒に取り組むフィールドや仕組みをつくれるかどうか、地域の未来を左右すると感じました。

- ・これまで聴講のみでしたが、少しでも意見交換等をする事で、フォーラムとしての効果が格段に向上したものと思います。
- ・もう少し登壇者を減らして割振時間を少し長くしてほしい。

広報実施②地域循環共生圏セミナー2025(ERCA事業) :実施概要

「環境×他分野」のテーマ設定により、396名の地域循環共生圏と関わりのなかった層がセミナーに申込

セミナーの目的

他領域と地域循環共生圏の接続イメージの提示

他領域(他省庁や観光・福祉関連)で地域づくりを行う関係者に、既存の関心を入り口として地域循環共生圏の接続イメージを提供する。

環境視点を加えることのメリットの提示

環境視点を加えることで、地域や企業にどんなメリットをもたらすかを事例の発表を通して伝える。

◆開催日時:

- ・令和7年12月2日(観光)、9日(福祉)
- ・令和8年1月14日(交通)、28日(教育)

◆開催方法:オンライン

◆参加人数など

申込総数:504名

※うち、地域循環共生圏を「知らない」

「知っているが、関わったことがない」層の申し込みは396名

当日参加者数

第1回:132名 第2回:158名 第3回:150名 第4回:122名

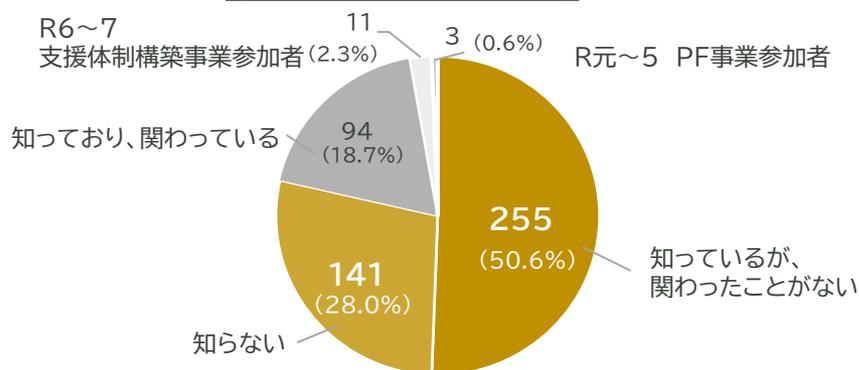
◆その他

実施内容はnoteでの記事化とアーカイブ発信を実施

申込者内訳(504名)



地域循環共生圏との関係性



<p>第1回</p> <p>観光×環境</p> <p>地域全体で進める地域資源を活かした観光まちづくり</p> <p>12月2日</p> <p>15:00~17:00</p> <p>山田綾氏</p> <p>瀬戸貴博氏</p>	<p>第3回</p> <p>交通×環境</p> <p>地域交通課題から始まる住民主体の地域づくり</p> <p>1月14日</p> <p>15:00~17:00</p> <p>羽鳥達也氏</p> <p>清水広行氏</p>
<p>第2回</p> <p>福祉×環境</p> <p>地域資源を活用した、暮らしをより良くするための共助のあり方</p> <p>12月9日</p> <p>15:00~17:00</p> <p>熊谷美恵氏</p> <p>平山裕也氏</p>	<p>第4回</p> <p>教育×環境</p> <p>地域に開かれた学びを通じた次世代の人材育成</p> <p>1月28日</p> <p>15:00~17:00</p> <p>濱上隆道氏</p> <p>木原久美子氏</p>

広報実施②地域循環共生圏セミナー2025(ERCA事業) :アンケート結果

地域循環共生圏の非関与層が多く参加し、他分野の視点を学ぶ機会となった

参加者の地域循環共生圏との関わり

	知っている が関わった ことはない	知らない	知っており 関わっている	R6~7支援 体制構築事業 参加団体	R1~R5プ ラットフォ ーム事業参 加団体
①観光 (257)	141 (54.9%)	53 (20.6%)	55 (21.4%)	7 (2.7%)	1 (0.4%)
	194 (75.5%)				
②福祉 (323)	164 (50.8%)	86 (26.6%)	63 (19.5%)	8 (2.5%)	2 (0.6%)
	250 (77.4%)				
③交通 (329)	173 (52.6%)	82 (24.9%)	64 (19.5%)	8 (2.4%)	2 (0.6%)
	255(77.5%)				
④教育 (322)	172 (53.4%)	69 (21.4%)	71 (22.0%)	7 (2.2%)	3 (0.9)
	241(74.8%)				

今後のアクション(他領域との接続がイメージできたか)

※複数回答	具体的に 行動しよう と思う	新たな 視点・考え・ア プローチを取 り入れてみた い	もう少し 調べてみ たい	特に今後の アクション は考えてい ない	その他
①観光 (64)	10 (15.6%)	15 (23.4%)	31 (48.4%)	7 (10.9%)	1 (1.6%)
②福祉 (99)	24 (24.2%)	26 (26.3%)	41 (41.4%)	5 (5.1%)	3 (3.0%)
③交通 (64)	15 (23.4%)	20 (31.3%)	20 (31.3%)	6 (9.4%)	3 (4.7%)
④教育 (63)	15 (23.8%)	21 (33.3%)	18 (28.6%)	7 (11.1%)	2 (3.2%)

パネルディスカッション・質問タイムの満足度

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	回答率
①観光 (50)	6(12.0%)	31(62.0%)	13 (26.0%)	0	37.9% 参加者 132名
	37 (74.0%)				
②福祉 (81)	29(35.8%)	39(48.1%)	13 (16.0%)	0	51.3% 参加者 158名
	68 (83.9%)				
③交通 (54)	20(38.5%)	21(40.4%)	11 (21.2%)	2 (3.7%)	36.0% 参加者 150名
	41(78.9%)				
④教育 (42)	10(23.8%)	24(57.1%)	8 (19.0%)	0	42.0 参加者 100名
	34(80.9%)				

定性コメント

観光

- ・「プロセスを見せて、その変化を観光の素材とする」こと。また、地域を巻き込む意味で地元の人に見せるやり方は良いと思いました。

福祉

- ・資源回収で得た利益を地域に還元してく方法が大変興味深く、真似したいと思いました。

交通

- ・環境×交通への取組について、新たな視点をいただきました。
- ・地域課題に解像度高く向き合うほど、交通の課題との接点が具体的に
つながってくる、という理解を得られた。

教育

- ・高専は米子市にもあるのですが、学生や学校関係者が地域に対してど
のように関わっているのかほとんど知らないことに気づかされた。

広報実施③地域循環共生圏ウェブサイトの改修

現状は関与層の利用が中心であり、非関与層を巻き込むための導線設計や構成が不足している

地域循環共生圏ウェブサイトの現状

- ① 「地域循環共生圏」での検索がアクセス数の半数を占めており、総数も多くない
 - ・訪問者数は平日300弱ビュー、土日はほとんど閲覧されていない。
 - ・オーガニックリサーチとURLからの訪問が全体の90%弱を占める。
 - ・「地域づくり 環境」などのキーワードで検索上位に挙がってこない。
- ② 特定のページ(経済分析かイベント時にはイベント)にアクセスが集中している
- ③ 訪問者の平均滞在時間が4分と短く、セッションあたりのページビュー数も1.48と低い
 - ・「言葉も知らない層」向けと「高度な実践層」向けの情報が混在。
 - ・トップページが概念図や理念先行になり過ぎており、直感的に自身のメリットを理解しにくい。
 - ・「知る・学ぶ」が中心で、「相談する・連携する・参加する」などの具体的な行動への誘導が弱い。

改修の方向性

- ① 今後の事業展開・意向も踏まえ、訪問者が「自分に欲しい情報」を得やすい構成・デザインを検討
- ② 非関与層のアクセス増加に向け、広報実施で得られた関心を持ちやすいキーワードによるSEO対策を実施